



2015～16 年度  
国際ロータリー会長  
K. R. ラビンドラン

# Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度  
新潟ロータリークラブ会長  
竹石 松次

新潟 RC2 月第 2 例会 (2016.2.9) No.3121

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

## (2) 竹石 松次 会長挨拶

池田恒雄

明治四十四年 (1911) ～昭和十四年 (2002)

清流魚野川が流れ、八海山と駒ヶ岳を望む魚沼市 (旧・北魚沼郡小出町) で誕生した。

大正十三年、旧制小千谷中学に入学。その一年前に関東大震災があり、一時多くの被災者が避難していた。その頃から野球に親しみ練習を重ねて来た。昭和四年、小千谷中学を卒業、東京の早稲田大学に入学。

在学中の昭和六年 (1931)、雑誌「野球界」の編集に携わり、生涯の仕事となる野球との運命的な出会いとなった。東京六大学野球が全盛の時代で、早慶戦を中心の編集方針であった。

昭和十二年には、「野球界」の編集長に就任している。この頃、漸くプロ野球が誕生する季節を迎えていた。だが時局が戦争へという時代の中でアメリカから伝わった野球は敬遠の憂き目に遭い、「相撲界」と内容を変更せざるを得なかった。

昭和二十年 (1945) 春、空襲で印刷所が焼失し、雑誌の発行ができなくなったために会社を辞め一時故郷の小出に疎開した。

太平洋戦争で我が国が大きな痛手を被る中、新しい事業を検討していた恒雄は、終戦の翌年、昭和二十一年春、国立市の自宅に恒文社を創立、雑誌「ベースボールマガジン」を創刊する。

創刊号の表紙を飾った写真は、野球界を代表する長嶋、広岡の両選手であった。

長嶋茂雄は立教大学で活躍、読売ジャイアンツに入団する話題の選手、その長嶋と並び、早稲田大学から同じ球団に入った広島出身の広岡達朗が起用された。

社長であると同時にライターとしても活躍し、最も早く情報を伝えるために、それまで主流であった季刊、月間ではなく、週刊誌としてのこだわりを追求した。

「ベースボールマガジン」の創刊号には、知人で「学生野球育ての親」として名を馳せた飛田徳洲が寄せた名文が残っている。

『進め！野球の大道へ』

「ジャーナリズムのフェアプレーとは、その人の前で

いえないことは書かないことだ。命がけで男が挑むに足る仕事、それが出版である。その出版の仕事に志を持って。俺は出版のためなら橋の下に寝たっていい」

『頭は低く、眼は高く、心は広く』

スポーツ誌だけではなく、あらゆる分野に共通して言える名言である。人生の達人が残してくれた巻頭言の精神は、今も脈々と継承されている。

昭和三十三年 (1958)、プロ野球界を大いに沸かせた長嶋茂雄が颯爽と登場した。

長嶋以前のスポーツ誌は、六～七万部が一般的で、十萬部まで行けば「金一封」が出た時代であった。しかし、長嶋の登場で、二十万、五十万、そして、百万部に迫る人気スポーツ誌になり、恒雄の経営戦力は、時代の波に乗り、王・長嶋の黄金時代に勢いを増していった。

その後、東京オリンピックが開催され、男女のバレーボールが金メダルを獲得、ウエイトリフティングの三宅義信、レスリングの市口政光、花原勉、柔道の猪熊功、体操の遠藤幸雄、小野喬等が活躍、十六個の金メダルを獲得、その模様は大きく報道された。

プロ野球に加え、Jリーグで代表されるサッカー、石川僚選手の活躍するプロゴルフ、スキー、スケート、バドミントン、テニス、陸上競技等、スポーツの話題は、今や世界を巡っている。

やがて恒雄は、二つのことを実行している。

一つは、ロシア (旧・ソ連) への野球普及活動である。昭和六十一年、ハバロフスクを訪問、オリンピックの種目に野球が選定されるという情報をキャッチしたことで、柔道を通じて交流があった東海大学の松前重義の協力もあり、新潟市の姉妹都市ハバロフスクの体育大学の学生への支援をすることになった。

平成三年には、新潟市でロシア、韓国、北朝鮮のチームを招いて親善野球大会が開催され、野球を通じての国際交流が実現した。

今一つは、ふるさとの南魚沼市浦佐に「池田記念美術館」を作ったことである。尊敬する内村鑑三の名言「事をなすは人であり、人は郷土が生むものである」の精神を故郷

のために実践した。

記念館には、川上哲治像、長嶋茂雄が使ったグラブ等貴重な野球関係資料、また、東京オリンピックで使用した同じ新潟県燕市出身の亀倉雄策制作の東京五輪のポスター、征服等の資料、そして、相撲関係の資料・写真等、こうした三本柱のスポーツコレクションの蒐集、公開展示されている。

そして、旧制小千谷中学の先輩でもある、詩人の西脇順三郎や良寛、同門の歌人、書家の会津八一、ラフカディオ・ハーン・小泉八雲の直筆原稿等が公開されている。

自著「白球に乗せて」の中で、

「私は『一隅みを照らす』という言葉が好きなんです。一隅とは片隅のこと。一生懸命、おごらず謙虚に一隅のために尽くしていけば、やがてそれが大きなうねりとなって世界に広がっていくのではないか。」

スポーツ誌の創設、そして、出版社で大きな功績をあげたことで、平成元年、出版界としては異例の野球殿堂入りを果たしている。

平成十四年、九十一歳で生涯を閉じた。

二回目の東京五輪、二千二十年の開催決定は、鬼籍に入った九年後の平成二十五年であった。

出版を通して常にフェアプレーの精神を訴え続けた恒雄の根底には、雪深い新潟県の魚沼で育った忍耐強い精神とジャーナリズムのフェアプレーに徹した信念が込められていた。

### (3) ゲストの紹介

・セコム上信越(株)社長付課長 中山隆一氏

### (4) ビジターの紹介

・野沢 慎吾君(新潟東 RC)

### (5) 同好会報告

・ゴルフ同好会 柴田史郎会長

同好会世話人は昨年同様で、会長柴田史郎、副会長高橋康隆、会計福地利明、幹事小林 建、幹事若槻良宏、幹事吉田和弘の6名です。昨年のコンペ優勝者は4月務台昭彦さん、5月高橋康隆さん、6月中止、7月松本英明さん、8月小飯田澄雄さん、9月中山 康さん、10月堀 盛富さんでした。今年のコンペは4月から10月まで毎月第4日曜日紫雲GCで行います。但し5月のみ前橋RCとの合同懇親コンペの為、第4土曜日5月28日紫雲GCになります。前橋RCとの対抗戦は野球部と共同で行う予定で、懇親会も野球部と一緒にやります。6月はチャリティコンペです。これら全て事前に幹事から詳しいご案内を差し上げます。コンペ後の懇親会も含めて、今年も多数のご参加をお待ちしています。

・料理研究会

次回料理研究会は3月10日(木)を予定しております。

### (6) 各種ご寄付の発表

**ロータリー財団寄付発表(得永 哲史副委員長)**

石本隆太郎君

**米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝大委員長)**

石本隆太郎君 徳山 啓聖君

**青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)**

樋熊 紀雄君 小林 悟君

本間 彊君

### (7) 幹事報告(吉田和弘幹事)

来週の合同例会に参加される方は、会場にて細野副幹事より名札の引渡しがあります。懇親会が終わりましたら、回収にご協力ください。

### (8) 会員スピーチ「植草甚一的な新潟の過ごし方」

セコム上信越(株)代表取締役社長竹田 正弘君

(9) 2月9日例会の出席率 67.02 %

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者63名(出席免除会員4名を含む)

(2週間前メーク後 79.38 %)

2月23日の例会予定

新潟市内 RC 合同例会

18:00~ 受付 18:30 開会 ホテルオークラ新潟

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>